

中・高 合同

令和5年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究構想図	3
III	研究の仮説	4
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	7
VI	分析と仮説の検証	14
VII	研究の成果	15
VIII	今後の課題	16

研究主題

互いのよさを認め合い、自己の可能性を発揮する資質・能力 の育成を目指す学級活動・ホームルーム活動の工夫 ～多様な他者を尊重した協働的な学びの充実～

I 研究主題設定の理由

1 研究主題設定の社会的背景

現行の学習指導要領では、改訂の経緯として、今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されており、このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められているとしている。

これらの資質・能力を育成するためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る必要がある。「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会 令和3年1月26日）では、「個別最適な学び」の実現には、「指導の個別化」と「学習の個性化」の充実が必要であるとともに、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないために、「協働的な学び」を充実させることの重要性が示されている。

「協働的な学び」を充実させるためには、探究的な学習や体験活動等を通じて、多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重することが必要である。

特別活動では「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を持ち、これまで地道に取り組まれ蓄積されてきた実践を肯定しつつ、その充実を図っていくことが求められている。先の見通せない時代において、生徒は多様な他者と互いのよさを生かしながら、自ら将来を切り拓く力が必要であり、三つ視点を基にした特別活動の授業改善に期待されるものは大きいと考え、本研究主題を設定した。

2 中学校・高等学校における特別活動の現状と課題

特別活動における集団活動の指導に当たっては、「いじめ」や「不登校」等の未然防止等も踏まえ、生徒一人一人を尊重し、生徒が互いのよさや可能性を発揮し、生かし、伸ばし合うなど、よりよく成長し合えるようにすることが大切である。しかし、「令和4年度全国学力・学習状況調査報告書【質問紙調査】」（文部科学省 令和4年8月）によると、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という質問に対して、中学校では71.4%の生徒が肯定的な回答をしている。また、令和3年度の同調査においても69.4%の生徒が肯定的な回答をしており、若干の増加傾向がうかがえる。この結果からも、生徒の自主性は高まっていることが分かる。しかし、中学校・高等学校の発達段階は、生活体験や社会体験もまだ十分でなく、自分の考えに明確な自信がもてない時期でもあると考えられる。自己中心的な思考に陥り、自分自身の成長の可能

性を自ら閉ざすことなく、他者や社会との関わりの中で生きるという自覚をもって成長できるように、教師の適切な指導等が必要である。教師は、小学校からの特別活動の既習内容について理解するとともに、合意形成を図る場面で、生徒が同調圧力に流されることなく、批判的思考力を持ち、他者の意見を受け入れつつ自分の考えを主張できるように指導を積み上げることが大切である。

さらに、近年、社会に内在する孤独・孤立感の問題や不登校傾向の生徒増加などの問題が後を絶たない状況である。そのような現状を踏まえ、これからの社会を形成する生徒にとって大切なことは、人と人とのつながりや居場所を実感できることである。

3 本研究の視点と育成を目指す資質・能力

本研究は、中学校と高等学校の合同研究である。中学校と高等学校の特別活動において共通する視点である、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点のうち、本研究では「人間関係形成」に重点を置き、学級活動・ホームルーム活動の内容(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」を通して、互いのよさを認め合い、自己の可能性を發揮する資質・能力の育成を目指した。「人間関係形成」は、集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへ形成する視点がある。人間関係形成に必要な資質・能力は、個人と個人あるいは個人と集団という関係性で生まれると考える。年齢や性別、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かしながら協働的な学びができるように研究を進めた。

【本研究の視点と育成を目指す資質・能力から作成した「評価の観点」】

○知識及び技能

多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けている。

○思考、判断、表現

人間関係をよりよく構築していくために、多様な場面で、自分と異なる考えや立場にある多様な他者を尊重し、認め合いながら、支え合ったり補い合ったりして、協働している。

○主体的に学習に取り組む態度

多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったり、新たな環境のもとで人間関係を築こうとしている。

II 研究構想図

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会 令和3年1月26日）

目指す生徒像

人間関係形成【重点研究項目】	社会参画	自己実現
多様な他者を尊重して、人間関係を構築できる生徒	集団の様々な問題を主体的に解決できる生徒	自己の生活の課題を発見しよりよく改善できる生徒

研究主題

互いのよさを認め合い、自己の可能性を発揮する資質・能力の育成を目指す
学級活動・ホームルーム活動の工夫
～多様な他者を尊重した協働的な学びの充実～

研究仮説

学級活動・ホームルーム活動において、生徒が学校や学級における生活をよりよくするための課題を見だし、多様な他者と協働的な学びを通して合意形成を図ることができれば、互いのよさを認め、自己の可能性を発揮する資質・能力を育成することができるだろう。

研究の視点

① 生徒自ら課題を発見する授業展開の工夫	② 互いのよさを認め、自己の可能性を発揮できる話し合い活動の工夫
----------------------	----------------------------------

学びの過程（検証授業）

① 問題の発見・確認	よりよく生活するための諸問題を見付け、「議題」を学級全員で決定する。 解決に向けて自分の意見や考えをもつ。
② 解決方法等の話し合い	問題の原因や、具体的な解決方法についてグループで話し合う。 多角的な視点をもって問題に向き合う。
③ 解決方法の決定	多様な他者との話し合い活動で具体化された解決方法について合意形成を図る。
④ 決めたことの実践	明確な役割を意識して、決定した解決方法や活動内容について責任をもって実践する。
⑤ 振り返り	定期的に振り返り、実践の継続や新たな課題の発見につなげる。

検証方法

① 「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点からアンケートを実施し、授業前と授業後の変化を分析する。
② 自己理解の段階での意見（記述）と協働的な活動を終えた後の意見（記述）を比較し、合意形成が図られているかを考察する。

Ⅲ 研究の仮説

新型コロナウイルス感染症への対応のために、文部科学省の依頼により、令和2年3月2日から全国の学校で一斉臨時休業措置が取られた。その後も分散登校や給食の黙食、学校行事の中止や縮小しての実施等の制限により、生徒が直接的な関わりを通して人間関係を構築する場面が大きく減少した。

現在、様々な制限が解除されたが、そのことが生徒に与えた影響があり、中でも自己と集団との関わりを学び、健全な生活や、社会の一員としての実践力を高めるといった発達課題に対して、その影響は大きいと考える。

「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」（文部科学省 令和4年10月27日）によると、不登校児童生徒数は9年連続で増加し、過去最多となっており、学校に関わる状況における不登校の要因は、いじめを除く友人関係をめぐり問題が最も多いと報告されている。

このような現状を踏まえ、生徒のよりよい人間関係を構築する資質・能力を育成するためには、協働的な活動の基盤として、学級の課題を自分事として捉え、多様な考えや背景をもつ他者を認めながら、自己の考えを主張して合意形成を図ることが必要である。そのような学級集団の中でこそ安心して自己の可能性を発揮しようという態度が養われると考える。

以上のことから、学級活動・ホームルーム活動において、生徒が学校や学級における生活をよりよくするための課題を見だし、多様な他者と協働的な学びを通して合意形成を図ることができれば、互いのよさを認め、自己の可能性を発揮する資質・能力を育成することができるだろうと仮説を立てた。

Ⅳ 研究の方法

全ての生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な実現に向けて、学級活動・ホームルーム活動で、互いのよさを認め合い、自己の可能性を発揮する力の育成を目指した。学級活動・ホームルーム活動における基本的な学習過程である、「問題発見・確認」、「解決方法等の話し合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」を通して生徒が他者を認め、自分自身が集団の形成者として自分の個性を生かして活動できると考え、以下の方法で研究を行った。

1 基礎研究

- 中学校学習指導要領解説特別活動編（文部科学省 平成29年7月）
- 高等学校学習指導要領解説特別活動編（文部科学省 平成30年7月）
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校特別活動編（国立教育政策研究所 令和2年3月）
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校特別活動編（国立教育政策研究所 令和3年8月）
- 学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（文部科学省 令和3年3月）
- 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、

個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(中央教育審議会 令和3年1月26日)

- 学校文化を創る 特別活動 中学校・高等学校編(国立教育政策研究所 令和5年5月)

2 実践研究

(1) 指導方法の工夫

ア 生徒自ら課題を発見する方法の工夫

アンケートを実施し、学級活動・ホームルーム活動の担当生徒を集めて代表者会議を行った。その中で、アンケートの結果から学級の取り組むべき課題を見だし、「議題」を選定した。また、合意形成を図るための話合いのルールを確認した。代表者会議を実施し、学級活動・ホームルーム活動に向けて代表生徒同士の共通認識をもつことで、代表生徒の意欲を高めた。検証授業では、合意形成を図るために、付箋等を活用することで、考えを可視化し、生徒が課題を発見しやすくなるように工夫した。

イ 互いのよさを認め、自己の可能性を発揮できる話合い活動の工夫

一人一人が考えた課題解決に向けた方法を各班で話し合う際に、一人1台の学習者用端末を活用することで、同じ内容の意見を集めやすくした。また、各班で意見を出し合いながら、合意形成を図る際には、少数意見についても必ず話し合うことで、互いのよさを認め、自己の可能性を発揮できる話合い活動になるような工夫をした。

ウ 一人1台の学習者用端末の活用

一人1台の学習者用端末を活用して、学級の意見を事前にまとめておく。その結果を共有することで、他者の意見に触れながら、自分や班の意見を深めることができるように工夫をした。

(2) 検証授業

学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画 ア」に基づき検証授業を行った。授業は、学習指導要領で例示されている学習過程である、「問題発見・確認」、「解決方法等の話合い」、「解決方法の決定」に沿って行い、授業後に「決めたことの実践」、「振り返り」を行った。「解決方法等の話合い」の場面では、生徒が付箋や一人1台の学習者用端末を活用して合意形成を図り、学級の課題解決法を決定した。

(3) 成果検証の手だて

「ホームルーム活動及び学級活動におけるアンケート」(表1)を作成し、生徒の実態把握と成果検証を行った。アンケートの項目は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点と関連付けた。また、生徒の授業前と授業後の記述意見を比較し、合意形成が図られているかを考察した。アンケートの項目は、1から5の質問事項が「人間関係形成」に、6から11の質問事項が「社会参画」に、12から18の質問事項が「自己実現」に関連付けた。なお、アンケートは一人1台の学習者用端末を使用し、実施した。

(表1) ホームルーム活動及び学級活動におけるアンケート

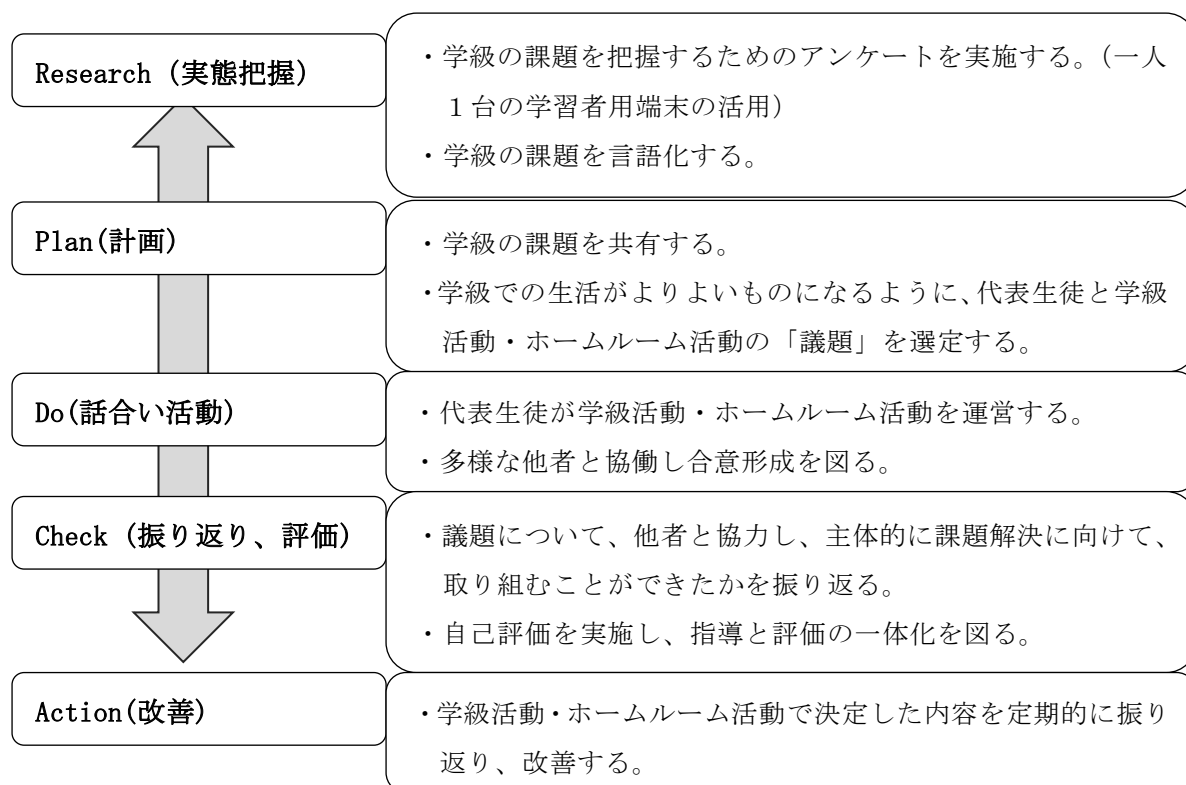
これは学級活動に関するアンケートです。学級をよりよくするために実施します。アンケートは目的以外には使用しません。今の自分の気持ちや行動に近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。

1. 学級の仲間の意見や考えが自分と違っていても、学級の仲間の意見や考えを認めることができる。
2. 意見や考えが違っていても、自分が正しいと思うことを主張できる。
3. 私は、学級の仲間の意見を生かしながら話し合い活動に取り組んでいる。
4. 私は学級の仲間を認めて行動している。
5. 学級の仲間は、私のよいところを見付けようとしている。
6. 私は学級の仲間や学級のためになることは、自分で見付けて実行している。
7. 私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる。
8. 私は学級の課題解決や目標達成に向けて行動したいと思う。
9. 私は学級のよいところと課題を理解している。
10. 私は学級の課題解決や目標達成のために行動している。
11. 私は学級の課題解決や目標達成のためにクラスの仲間と協力して取り組んでいる。
12. 学級の仲間との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。
13. 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
14. 私は学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる。
15. 私は自分のよさを学級活動で生かしている。
16. 私は学級活動を通して、今後の自分の課題を考えることができる。
17. 私は学級活動を通して、自分の成長を感じている。
18. 将来の夢や目標をもっている。

※回答は全て四件法で実施した。

V 研究の内容

1 「Research（実態把握）」を出発とした検証授業



2 検証授業における評価規準

(1) 中学校

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成のための手順や活動の方法を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 ・課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。 	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとする。

(2) 高等学校

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
ホームルームや学校の生活を向上・充実するために諸問題を話し合っ解決することや他者を尊重し、協働して取り組む大切さを理解している。	様々な場面で、自分と異なる考えをもつ多様な他者を尊重し、認め合いながら、支え合ったり補い合ったりして、合意形成を図っている。	他者の価値観や個性を受け入れ、互いのよさや自己の可能性を発揮できる人間関係を築こうとしている。

3 第1回検証授業 中学校 第2学年

(1) 本時の議題

「学級の課題の解決に向けて話し合いを行い、よりよい学級の生活づくりについて考えよう。」

学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

(2) 本時のねらい

- ・ 班での話し合い活動を行い、課題解決に向けて合意形成を図ることを通して、学級活動に向き合う態度を育てる。
- ・ 個人の意見を班でまとめる協働的な学びを通して、多様な他者を尊重し合意形成を図ることで、互いのよさや可能性を発揮する力を育成する。

(3) 事前の指導と生徒の活動

	活動内容	指導上の留意点	○目指す生徒の姿 ●評価方法
第1回	学級の諸問題を振り返る。(アンケートの実施)	アンケートを実施する意義について説明し、理解させる。	○学級の生活上の諸問題を見だし理解しようとしている。 ●観察 (思考力、判断力、表現力)
第2回	代表者会議 (学級委員、班長) アンケートを確認し、議題を選定する。	学級をよりよくするための議題を選定できるように助言する。	○学級の代表として取り組んでいる。 ●観察 (主体的に学習に取り組む態度)

(4) 本時の展開

	活動内容	指導上の留意点	○目指す生徒の姿 ●評価方法
活動の開始	1 開会のことば 2 議題の発表・確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">学級目標のさらなる達成に向けての取り組みについて話し合おう。</div> 3 議題の選定理由の説明	・学級委員に代表者会議で選定した議題を発表させる。	
活動の	4 個人で考える ・課題の解決方法を付箋に	・学級の課題について個人で考えさせる。	

展開	<p>まとめる。</p> <p>5 班で話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の意見を班に共有する。 <p>6 班でまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班で、模造紙を使用し、付箋を分類する。 ・類似する意見を付箋にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動では班員に役割をもたせ、参加を促す。 ・合意形成を図る時には、少数意見についても話し合うように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践しようとしている。 ●観察 (思考力、判断力、表現力) ○互いのよさや可能性を発揮する話し合い活動が展開されている。 ●観察 (思考力、判断力、表現力)
活動のまとめ	<p>7 各班の発表</p> <p>8 自己評価、感想記入</p> <p>9 教師の話</p> <p>10 閉会のことば</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大型モニターを使用して発表を行う。 ・各班における活動を賞賛するとともに学級委員、班長に活動の振り返りを発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分と異なる考えや立場にある他者を尊重して認め合い、支え合ったり補い合ったりして協働している。 ●観察 (思考力、判断力、表現力)

(5) 検証授業を終えて

ア 生徒の様子

- 班での話し合い活動において色付きの付箋を活用したことで話し合いが円滑になり、個人の意見を尊重して合意形成を図ることができた。
- 授業後の振り返りアンケートの「自分の考えや意見を発表し、表現することができましたか」という質問項目に対して、「達成できた」という回答であった。学級目標の達成に向けた取り組みに対しては、「仲間の意見を聞くことで、さらに自分の考えを分析することができた」「みんなが学級目標の達成に向けて真面目に考えていることが分かった」等、学級目標を達成しようとする意欲が感じられる意見が多く見られた。

イ 指導の工夫

- 生徒主体の話し合い活動を行うために、代表者会議を行った。その中で、学級活動の流れの確認や、役割分担、話し合い活動における注意事項の確認を行ったことで、学級委員や班長の活動への意欲が高まるように工夫した。
- 班の話し合い活動において色付き付箋を活用し、全ての生徒が個人の意見を発言できるようにすることで、全員が話し合い活動に参加できるように工夫した。
- 発表では、一人1台の学習者用端末を活用し、意見を可視化することで、仲間の意見を確認し、自分の意見を深めることができるように工夫した。

4 第2回検証授業 中学校 第2学年

(1) 本時の議題

「合唱コンクールに向けて、学級の課題解決について話し合い、学級の取り組みを決定しよう」

学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

(2) 本時のねらい

- ・ よりよい合唱コンクールにするために、アンケートで分かった課題に対して、班で話し合う。その際、他の班の意見も踏まえ、自分たちの班の意見を深めたりすることで、課題解決に向けて合意形成を図る。そのような活動を通して、学級活動に取り組む態度を養う。
- ・ 個人の意見をグループでまとめる協働的な学びを通して、多様な他者を尊重し合意形成を図ることで、互いのよさや可能性を発揮する力を育成する。

(3) 事前の指導と生徒の活動

第1回検証授業と同じ

(4) 本時の展開

	活動内容	指導上の留意点	○目指す生徒の姿 ●評価方法
活動の開始	1 開会のことば 2 議題の発表・確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 合唱コンクールに向けて、学級の課題解決について話し合い、学級の取り組みを決定しよう </div> 3 議題の選定理由の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱コンクール実行委員パートリーダーが協議した過程を示した上で、本時の概要を説明する。 	
活動の展開	4 個人で考える <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人1台の学習者用端末に個人の意見を記入する。 5 班で話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・ 類似した意見のタイトルを考える。 6 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の班の意見を踏まえ、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で考える時間を確保し、主体的に話し合いに参加させる。 ・ 一人1台の学習者用端末の操作に不安のあるグループに助言する。 ・ 合意形成を図る時には、少数意見についても話し合うように助言する。 ・ 他の班のよいところに向け、自分たちの話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決に向けて話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践しようとしている。 ○ 互いのよさや可能性を発揮する話し合い活動が展開できている。 ● 観察 (思考力、判断力、表現力)

	自分たちの意見を修正する。	に生かすように助言する。	
活動のまとめ	7 各班の発表 ・決定事項の確認 8 自己評価、感想記入 9 教師の話 10 閉会のことば	<ul style="list-style-type: none"> ・一人1台の学習者用端末を活用した発表を支援する。 ・学級委員、班長に本時の活動について講評させる。 ・成果と課題を具体的に記入するように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分と異なる考えや立場にある他者を尊重して認め合い、支え合ったり補い合ったりして協働している。 ●観察、振り返りシート (思考力、判断力、表現力)

(5) 検証授業を終えて

ア 生徒の様子

- 授業後のアンケートでは、「学級の課題や自分の問題を考えることができたか。」との質問に対して 96%の生徒が肯定的と回答をした。また、「他者のよさを目を向けることができたか。」との質問に対して 100%の生徒が肯定的な回答をした。自由記述では「自分から考えた意見は、自分から果たさなければ達成できないと思うので、これからの練習で行っていきたい。」のように、意欲の高まりを感じる意見が見られた。
- 授業後の合唱コンクール練習は、授業前とは違い、時間を無駄にすることなく、互いに呼びかけ合って熱心に練習を行い、学級の課題の克服に向けて一人一人が主体的に取り組む様子が見られた。

イ 指導の工夫

- 事前に合唱コンクール実行委員とパートリーダーで課題を共有し、司会の学級委員と学級会の進め方について打ち合わせたことにより、授業を進行する役割の生徒達に「これならやれそうだ」という気持ちや自信をもたせるように工夫をした。
- 班ごとに一人1台の学習者用端末に個人の意見を記入することで、全員の意見が一人1台の学習者用端末に整理され、一人一人の意見を尊重しながら話し合うことができるように工夫した。

5 第3回検証授業 高等学校（全日制・普通科）第1学年

(1) 本時の議題

「合唱コンクールに向けて、よりよいホームルームに成長するためのスローガンを決めよう。」

ホームルーム活動 (1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画

ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決

(2) 本時のねらい

- ・ 学校生活を振り返り、互いのよさや自己の可能性を発揮して、よりよい集団になるためにホームルーム全体で行動を改善しようとする態度を養う。
- ・ 班活動や全体の活動を通して、多様な他者を尊重し合意形成を図る。

(3) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動内容	指導上の留意点	○目指す生徒の姿 ●評価方法
第1回	今までの行事の取り組みを振り返る。 ・自分の役割を知る。 ・行事におけるホームルームのよいところと課題について整理する。	・ホームルーム委員の生徒に司会・進行をさせる。 ・一人1台の学習者用端末で情報を共有させる。 ・ホームルームの諸問題について、自分事として捉えるように指導する。	○学校生活を振り返り、自分やホームルーム全体の今後の課題を考えることができる。 ●学習カード (知識及び技能)
第2回	代表者会議 ・ホームルームでの課題を共有する。 ・学習カードを基に、ホームルームがよりよくなるための議題を選定する。	・ホームルーム委員の生徒を中心に進行させる。 ・参加した生徒に責任感をもたせる。	

(4) 本時の展開

期日	活動内容	指導上の留意点	○目指す生徒の姿 ●評価方法
活動の開始	1 本日の議題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">合唱コンクールに向けて、よりよいホームルームに成長するためのスローガンを決めよう。</div>	・ホームルーム委員の生徒を中心に進行させる。	
活動の展開	2 個人で考える。 ・どのような合唱コンクールにしたいですか。 3 班で考える。(話し合い) ・ホームルームの課題と原因について意見を共有し、班のスローガンを協議する。 4 班のスローガンを決める。	・一人1台の学習者用端末を活用し、個人の意見をまとめさせる。 ・一人1分程度で発表し、他者の意見を理解させる。 ・多様な他者の意見に触れる大切さについて助言する。	○他者の意見を尊重しながら、話し合うことができる。 ●観察 (思考力、判断力、表現力) ○他者の意見を尊重しながら、話し合うことができる。

	5 全体に向けて発表する。 6 スローガンを決定する。	・決定の方法について考えさせる。	●観察 (思考力、判断力、表現力)
活動のまとめ	7 個人の振り返り 8 生徒の話 9 教師の話	・様々な考えに触れ、合意形成しながら成長する大切さを伝える。	○他者を尊重し、協働して取り組む大切さを理解している。 ●振り返りシート (知識及び技能)

(5) 検証授業を終えて

ア 生徒の様子

- 代表者の生徒が必要に応じて一人1台の学習者用端末の操作方法を支援する等、進行状況を把握して積極的に働きかけたため、ホームルームとしての一体感が生まれた。
- 一人1台の学習者用端末を活用し、情報共有ができたため、意見が異なる他者の意見も踏まえながら、主体的に話し合いをすることができた。
- 授業の振り返りにおける自己評価では、「友人の意見を尊重しながら話し合えることができる」という項目に対して、100%の生徒が肯定的な回答をした。その中で、「よくできる」と回答した生徒の結果は授業前の32.5%から、授業後は77.5%となった。

イ 指導の工夫

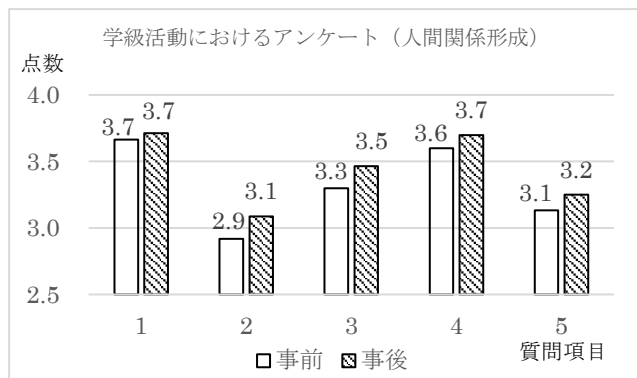
- 事前に代表者会議を実施し、話し合いの流れを共有したことや個別の役割分担をしたことで生徒主体のホームルーム活動を運営するように工夫した。
- 生徒用配布資料は全て一人1台の学習者用端末を活用することで共有し、他者の意見も一覧で見られるように設定し、多様な意見を取り入れて合意形成を図ることができるように工夫した。

VI 分析と仮説の検証

1 アンケート結果からの分析

検証授業を実施前と実施後で、特別活動において育成すべき資質・能力の視点である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」を踏まえた「学級活動におけるアンケート」を実施した。各質問項目において、回答を1～4点で点数化し、それぞれの平均値を算出することで、生徒の意識の変容を調査した。アンケートの結果は以下のとおりである。

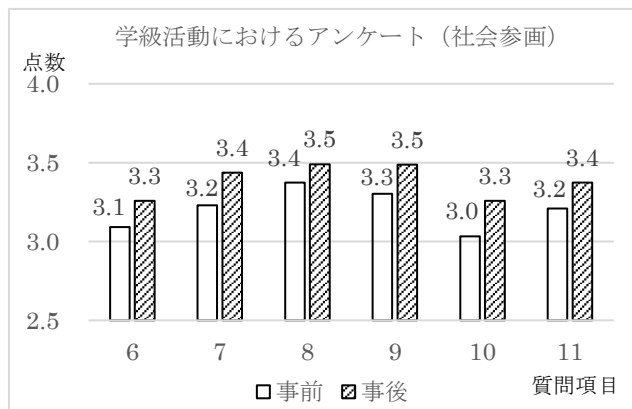
【人間関係形成に関するアンケート】



1. 学級の仲間の意見や考えが自分と違っていても、学級の仲間の意見や考えを認めることができる。
2. 意見や考えが違っていても、自分が正しいと思うことを主張できる。
3. 私は、学級の仲間の意見を生かしながら話し合い活動に取り組んでいる。
4. 私は学級の仲間を認めて行動している。
5. 学級の仲間は、私のよいところを見付けようとしている。

「人間関係形成」に関する質問項目における結果は、質問項目2.において、検証授業実施後の方が実施前と比べて0.2点の上昇が見られた。このことは、多様な他者と協働しながら合意形成を図る過程で、互いのよさを認め合うことができた結果であると考えられる。

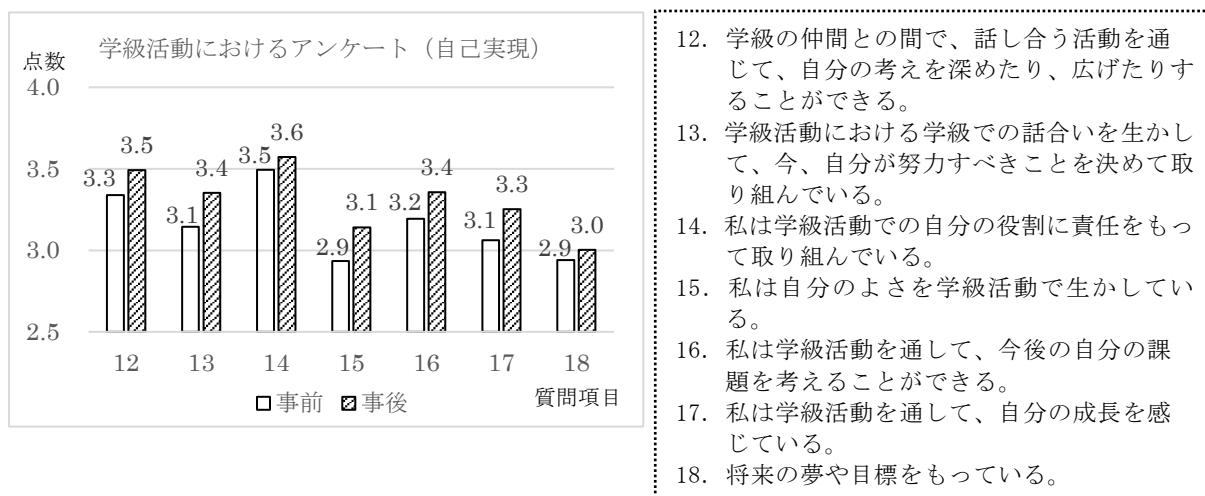
【社会参画に関するアンケート】



6. 私は学級の仲間や学級のためになることは、自分で見付けて実行している。
7. 私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる。
8. 私は学級の課題解決や目標達成に向けて行動したいと思う。
9. 私は学級のよいところと課題を理解している。
10. 私は学級の課題解決や目標達成のために行動している。
11. 私は学級の課題解決や目標達成のためにクラスの仲間と協力して取り組んでいる。

「社会参画」に関する質問項目における結果は、質問項目10.において、検証授業実施後の方が実施前と比べて0.3点の上昇が見られた。このことは、生徒が学級活動において合意形成を図る活動を通して、個人が集団のために課題解決に向けた行動をする意識が高まった結果であると考えられる。

【自己実現に関するアンケート】



「自己実現」に関する質問項目における結果は、質問項目 13. において、検証授業実施後の方が実施前と比べて 0.3 点の上昇が見られた。このことは、生徒が話し合い活動等を通して、学級をよりよくしていくための自己の役割を自覚できた結果であると考えられる

2 仮説の検証

アンケートの結果から、特別活動において育成すべき資質・能力の視点である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」に関する全ての質問項目において、検証授業実施後の方が実施前に比べて高い結果となった。この結果から、生徒がよりよい学級にするための課題を見だし、学級の仲間を互いに認め合いながら話し合い活動ができたことが、生徒の意識や行動に変化を与えたと考える。したがって、「学級活動・ホームルーム活動において、生徒が学校や学級における生活をよりよくするための課題を見だし、多様な他者と協働的な学びを通して合意形成を図ることができれば、互いの良さを認め、自己の可能性を発揮する資質・能力を育成できるだろう。」という研究仮説は実証されたと言える。

VII 研究の成果

1 自分のよさを発揮しようとする意識の変容

検証授業の実施前と実施後でアンケートを行った。結果として、「人間関係形成」に関わる全ての質問項目において肯定的な回答が増えた。このことは、人とつながり、認め合おうとする意識を高めることができたことを証明している。また、授業の振り返りアンケートからは、付箋を活用して自分の意見を作成し、視覚的に自分の意見が生かされたと実感した生徒が「自分はどのような意見を言っても向き合ってもらえる。」「意見が否定されない、よい環境だ。」という安心感をもったと回答した生徒もおり、他者に認められることで、自分のよさを発揮しようという態度を養うことができた。

2 事前指導を充実させた効果的な話し合い活動

生徒の多くが、小学校での学級会において話し合い活動の司会や進行役を経験している。

このことを踏まえ、教師主体で議題の設定や話し合い活動を進行するのではなく、生徒主体で活動ができるように、事前に代表生徒を集めて、議題の選定や話し合い活動のルールの確認、進行の打ち合わせなど事前指導を丁寧に行った。そこに教師も参加して助言を与えることで、代表生徒が責任をもち、生徒主体の効果的な話し合い活動ができた。

3 全員で合意形成を図るための工夫

全ての検証授業において、全員で合意形成を図れるように、付箋や一人1台の学習者用端末を活用した。これにより、意見を発表することが苦手な生徒が自分の意見を出すことができたり、聞くことが苦手な生徒が考えを整理しながら聞くことができたりした。また、全員が主体的に活動に参加し、合意形成を図ることができた。生徒の振り返りアンケートからは、「自分の意見が生かされて、課題の発見と解決に役立っている」という意見が多く見られた。

VIII 今後の課題

1 よりよい人間関係についての理解

今回の成果検証では「よりよい人間関係」そのものについて生徒の考えを検証できる質問を設けることができず、「知識及び技能」について検証が十分にできなかった。日常生活の中での協働的な学びを通して、多様な他者の意見を受け入れ、円滑なコミュニケーションを図るために必要な心構えについて、生徒に考えさせることが必要である。学級には、特別な支援を必要とする生徒、日本語を母語としない生徒など、様々な生徒が在籍していることを念頭に置いて、相手を受容し、つながりをもつ大切さを指導することが必要である。

2 少数意見の取り扱い方

中学校の検証授業では、スローガンや解決策をまとめる中で、少数意見の取り扱いについて生徒は悩みながら司会・進行をしていた。話し合い活動を進める際には、少数意見に配慮し、互いの意見を認めるようにしなければ、人とのつながりや居場所の確保はできない。出し合った意見をいくつかの項目にまとめる場面では、「少数意見を取り扱う工夫」や「最終的な決め方を全員で決定する工夫」も必要となる。高等学校の検証授業では、一人1台の学習者用端末を活用して、個人に話し合いの経過がフィードバックされており、中学校の段階でも、場面に応じた一人1台の学習者用端末の活用等の工夫を考えていく必要がある。

3 小学校・中学校・高等学校の連携

今回は中学校と高等学校で合同研究を行った。今後は、小学校とも連携し、特別活動で育成を目指す資質・能力について、小学校・中学校・高等学校の間で連携を深めることが重要である。そのためには、「義務教育段階を終える段階で身に付けておくべき力は何か」、「高等学校卒業の段階で身に付けておくべき力は何か」という視点から、各学校段階で育成を目指す資質・能力を相互につなぐことを意識していく必要がある。

令和5年度 教育研究員名簿

中・高 合同・特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区麹町中学校	主任教諭	芝崎 豊
品川区鈴ヶ森中学校	主任教諭	山岸 新
足立区立第十二中学校	主幹教諭	山下 大輔
小平市立小平第四中学校	主任教諭	加藤 みゆき
小平市立小平第六中学校	主任教諭	大河内 麻衣
東京都立三田高等学校	主任教諭	◎加藤 景子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 貝沼 大輝

令和5年度
教育研究員研究報告書
中・高 合同・特別活動

令和6年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849